



大井町立相和小学校

学校通信

発行日
令和2年11月24日

発行者
中山 喜幸

そうわ通信

11月号

体を動かす心地よさ・競い合うおもしろさ・みんなでいっしょにやる楽しさ

相和祭「レッツトライ相和っ子 未来につなげ」

11月13日（金）、小春日和の気持ちよい青空の下、運動会の代替え行事である「相和祭」を行いました。運動会と同様の種目もありましたが、ほとんどの種目は、相和っ子班で協力して競い合い楽しめるようにと、6年生が中心になって各委員会で考えました。

例えば、「全校遊び」で子どもたちがよくしている「だるまさんがころんだ」を種目にすべくルールを工夫しました。班対抗で、行う人も見ている人も楽しくなりました。また、目を閉じて片足で1分30秒間立っているという「生き残れ かた足バランス」も委員会で考えました。単純なのですが、保護者のみなさんにも参加いただき、和やかな雰囲気ですべて楽しんでいただきました。「ヨガの成果がでた」と日頃の努力を披露する方もいました。他にも、ルールを工夫した全校リレーや全校ドッジボールも、異学年の交流を続けてきた子どもたちだからこそのものだったと思います。異学年で行うことを考慮し工夫されたルールをみんなで理解し守り、楽しいイベントにしようと豊かに関わり合う姿がありました。

また、各種目をみんなで行った後には、感想を発表し合う場もありました。「運動会とは違った種目だけどみんなでできて楽しかった」「ルールの工夫があり最後まで接戦でよかった」というような感想がありました。保護者の方々といっしょにやった「生き残れ 片足バランス」の感想では、親と出来た楽しさと共に、親の健康を願う気持ちがこもった感想も発表されました。

運動会で行われる徒競走も行いました。スタートラインでは、名前を呼ばれた子どもたちはまっすぐに手を挙げ覇気のある返事をしていました。そして、ゴールを走り抜けるまで、全力で友達と競い合う姿もありました。

全校ダンス「夜に駆ける」は、密集・密接を避けて相和っ子みんなが一つになるような取組みとして考えられたものです。これは、まず5・6年生が、町の笑顔特派員のスベリーさんからダンスを教えてもらいマスターしました。その後、相和っ子班ごとに5・6年生が下学年にダンスを伝授しアドバイスするなどして練習をしてきました。子どもたちが生き生きと楽しそうに全校でダンスを踊る姿は、正に相和っ子のお祭り「相和祭」にふさわしい光景でした。当日は、サプライズで、スベリーさんが登場して全校で楽しく踊りました。また、二度目のサプライズで、6年生がスベリーさんと秘密で練習してきたという別のダンスも全校の前で披露してくれました。

この日、子どもたちは、テーマ「レッツトライ相和っ子 未来につなげ」がプリントされたはちまき、それにリストバンドやシュシュを身に付けました。これらは、6年生が家庭科の学習を生かして作ったものです。

このように、子どもたちは、コロナ禍であっても仲間と絆を深めながら成長していこうとしています。

開会式（9:00）

- 1 はじめのことば
- 2 ちかいのことば
- 3 校長先生のことば
- 4 きらきらかがやけ声場



順	種目名	演技者	担当	予定時刻
1	ラジオ体操	全校	体育委員	9:10
2	80m走	3・4年	教師	
3	だるまさんがころんだ	全校	図書委員	
4	ハンパハンパハンパ	全校	体育委員	
5	50m走	1・2年	教師	9:50
6	レッツトライなわとび	全校	教師	

順	種目名	演技者	担当	予定時刻
7	バトンがへんしんリレー	全校	企画委員	
8	100m走	5・6年	教師	
9	生き残れ かた足バランス	全校	健康委員	
10	いものしゅかりレー	全校	環境委員	
11	夜に駆ける	全校	教師	
12	相和リズム体操	全校	体育委員	

開会式（11:20）

- 1 児童代表のことば
- 2 児童代表のことば
- 3 教頭先生のことば
- 4 校歌斉唱
- 5 おわりのことば

相和祭
～レッツトライ相和っ子
未来につなげ～



ちかいのことば（1年生）



だるまさんがころんだ



全校ドッジボール



全校ダンス「夜に駆ける」



サプライズの「6年生のダンス」



「生き残れ 片足バランス」



100m走「5・6年生」

保護者・地域の方々とともに野外体験活動～林間学校代替え行事～

相和でキャンプ！ 10月30日(金) [5年生]

林間学校の代替行事として「相和でキャンプ！」を行いました。感染症対策を行いながら、子どもたちの絆づくり・思い出づくりのために、保護者・地域の方々にご協力いただき、学校で行いました。

まず、神奈川大井の里体験観光協会の創作体験プログラム「竹灯籠づくり」を体験しました。観光協会の方の説明をよく聞いてから、子どもたちはノコギリや電気ドリルを注意深く使いながら自分の作品を作りました。子どもたちは慣れない手つきでいましたが、観光協会の方々は、熱心に優しく教えてくれました。

完成した竹灯籠を並べて、暗くした教室でみんなで鑑賞しました。教室の電気を消した瞬間に、「まあ、なんてことでしょう・・・」と、リフォームの番組でのおきまりのアナウンスで、感動を表す子どももいました。

そして、野外炊事のかわりに「竹筒ご飯」を作りました。事前の教職員の研修には、PTA会長の鈴木裕也さんにご指導いただきました。また、当日使用する竹筒も鈴木さんからいただきました。それとともに、当日焼きいもにと、おいしいサツマイモもたくさんいただきました。

炊飯には、火が必要です。火おこし体験も行いました。実は、事前に担任が火おこしの道具を作り、何度も試しに行ったのですが、あともう少しというところで成功はしなかったのです。しかし、当日は、ボランティアのお父さん方にご協力していただき、見事、火をおこすことに成功しました。

たくさんの保護者・地域のボランティアの方々に「相和でキャンプ！」を支えていただきました。そして、子どもたちが喜び、感動し、満足するためにお力を貸していただきました。更に、子どもたちの充実した姿にふれ、教職員と共に喜びを感じたことと思います。地域の方々の温かい想いの中で、自分たちの生活を営むことができているということ子どもたちは、感じたことと思います。



熱心に踊る6年生の後ろ姿に にじみでていたもの

相和祭前日の5校時、全校ダンスの最後の練習でのことです。右の写真は、そのときの6年生の後ろ姿です。当日を想定し観客側を向いてのダンス。それは、下級生に背を向けた形となります。その精一杯踊る姿に、これまで取り組んできた6年生の自信がにじみでているように感じました。

コロナ禍で、最高学年で経験することを楽しみにしていたであろう「運動会」「修学旅行」「連合体育大会」等が、悉く中止になってしまいました。しかしそうした中でも、「あいさつをおろそかにしてはいけない」「ソーシャルディスタンスでも相和っ子の絆は切らない」そんな想いで様々なことに取り組んできた、そのエネルギーと自信を感じました。

更には、これまで下学年にダンスを教えてきた6年生。全校に背を向けて踊るこの姿には、下学年を信頼して自分たちが精一杯踊っているようにも感じました。その感動とそのとき湧いた確信を6年生に伝えたく、右のようなメッセージを送りました。



君たちの踊る後ろ姿に
君たちの想いを感じた
感動した。
コロナ禍の中においても
相和っ子の絆を
求めて、考えて、行動してきた
そのエネルギーと自信に
満ちあふれていた。
相和祭
それは、正に 相和小のお祭り
励まし合い
認め合い
互いに高め合う
相和っ子の祭り
そうなることを確信した。
令和二年十一月十二日
相和小校長 中山 尊幸